

未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



毎月開催される夏秋どりいちご現地検討会の様子

「夏秋どりいちご 日本一」の原動力は新規就農！

浦河町と様似町ではJAひだか東や普及センターと連携して、夏秋どりいちごの産地化に取り組み、販売金額は全国一位となっています。両町の夏秋どりいちごはケーキなどお菓子に使われる業務用向けのいちごで、「すずあかね」という品種を栽培しています。

両町では夏秋どりいちごでの新規就農者を精力的に受け入れ、就農するための研修制度や就農時のリースハウス事業など受入体制を整え、平成28年度現在までの新規就農者は21戸と、夏秋どりいちご農家の65%を占めるまでになりました。

また平成28年には、浦河町と様似町が連携して7月15日を「夏いちご」の日に制定し、地元菓子店によるいちごスイーツの販売やいちごを使ったイベントが開催され、地域と農家が手をつなぎ一つになって「夏いちご」を盛り立てています。

昨年9月に東京で行われた農業普及活動高度化発表会で、「両町における夏秋どりいちご産地化に係る普及活動」を報告し、全国からも注目される内容となりました。（写真右）



高田一直地域第2係長による報告

参考にしよう！ 地域の活動事例

ミニトマトの窒素栄養診断による適正な樹勢管理で収量・品質アップ【本所 地域第1係】

本年度より、静内東別3地区の皆さんと、ミニトマトの収量、品質の向上を目指し、栄養診断に取り組んでいます。ミニトマトの樹勢管理は、今まで経験と勘に頼るところが大きく、追肥のタイミングや量の判断に苦労してきました。栄養診断は、第1花房直下葉の先端葉柄に含まれる硝酸態窒素濃度を、小型光度反射計などを用いて測定します。

得られた測定値は、ミニトマトの樹勢を色濃く反映しており（図1）、追肥の過不足が判断でき、樹勢を適正に維持することで、品質や収量の向上が期待できます。本年度は、診断に必要な基準値づくりを主眼に、追肥管理の検討を行いました。これまで迷いながら行ってきた樹勢管理を、数値として見ることができ「追肥のタイミングや量を検討するうえでとても参考になった」といった意見も聞かれています。今後、新規就農者の方々や、樹勢管理に苦労されている皆さんを中心に、広く活用して頂ける技術になればと考えています。

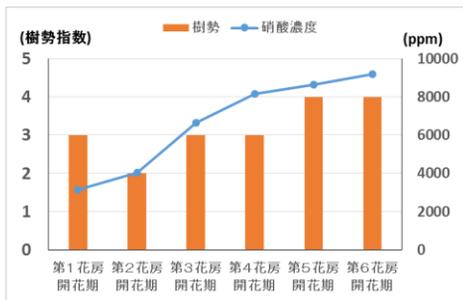


図1 栄養診断実施ほ場の事例
第1花房直下葉先端葉柄の硝酸態窒素濃度と樹勢 ハウス夏秋どり作型
(樹勢1弱 ←3~4適正 ⇒ 5強)

窒素栄養診断の実施

窒素栄養診断を実施して管理されたミニトマトほ場

アスパラガスを5年で反収1.7倍・販売額2.0倍に！

【本所 地域第2係】

浦河町野菜振興会アスパラ部会は、平成28年度現在、17戸、2ha（ハウス立茎栽培が中心）で、近年の戸数・面積は横ばいです。しかし部会、町、JA、普及センターが連携しながら、生産・販売を飛躍的に伸ばしてきました。

生産では①2重被覆ハウス導入推進で早期安定出荷②UVカットフィルムで害虫被害軽減③毎月の町、JA、普及センターによる巡回栽培相談の実施④「アスパラ通信」による情報伝達などで部会員の栽培意欲が上がり、収量・品質アップにつながっています。

販売では①共選による市場出荷②規格外品の販売③ギフト販売の強化④イベント会場への出店により販売額を伸ばしています。その結果、反収（規格内収量）は大幅にアップし（図1）、販売額2千万円を突破（図2）しました。

平成29年は2戸が新規入会し、栽培面積も現在よりも25a増える見込みです。普及センターはこれからもアスパラ部会の取り組みをお手伝いします。

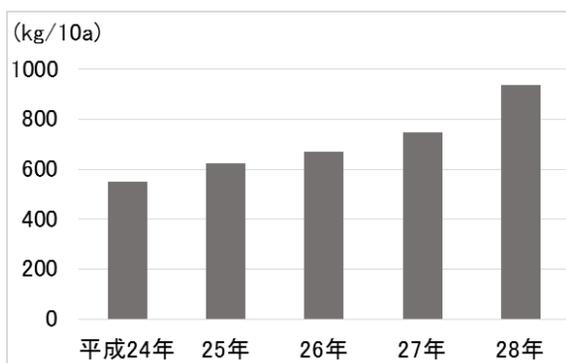


図1 10a当たり規格内収量の推移

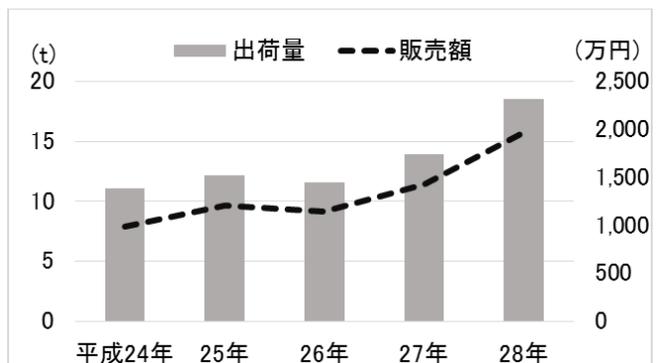


図2 規格内出荷量・販売額の推移

参考にしよう！ 地域の活動事例

黒毛和種繁殖雌牛への牧草サイレージ給与の取り組み

【西部支所 地域係】

日高町の株式会社サンシャインファームでは、平成27年より自走式ハーベスターを使って高水分グラスサイレージを調製し、黒毛和種繁殖雌牛に給与する取り組みを始めました。

本来は酪農技術であるこの取り組みを始めた背景には、従来行っていたラップサイレージ調製の収穫期間が飼養頭数や面積の拡大に伴って長期化し、牧草の栄養価や嗜好性の低下、牛のボディコンディション、増体重などにマイナスの影響を与えていたことが挙げられます

しかし取り組み後は、短期間での適期収穫が可能となり、牧草収穫作業の労働負担が大幅に軽減しました。また牧草の栄養価や品質、嗜好性が向上し、牛の体調や繁殖も良好に推移しています。農家からは、「牧草収穫作業に追われることが少なくなり、牛の調子も良いので非常に満足している。」との声が聞かれました。



自走式ハーベスターによる
収穫作業



丁寧な鎮圧作業



嗜好性は抜群に良い

いざ行け！ 地域を越えた絆。次代を担う青年農業者ゼミナール第1期生【広域】

今後の日高農業をけん引するリーダーの育成を目的とした次代を担う青年農業者ゼミナール第1期生は2年目を迎えました。

2年目は、「日高の農畜産物&軽種馬をPRしたい！」と実践活動にも取り組んできました（残念ながら台風被害で中止となりました）。また、視察研修ではゼミ生達の農場を視察し、お互いが違う経営体を視察できたことや新たな発見もあり、ゼミ生達の知られざる一面も見る事ができました。また意見交換会も行い、ゼミ生それぞれの絆も一層深まった様子でした。

今年3月に修了式を迎えるゼミ生からは「3年目も継続しないの？」「後輩をこのゼミに紹介したい！」などうれしい声も聞こえています。近い将来、ゼミ生達が日高を担っていく農業者になられることを祈念いたします！

また、3月からは新メンバーによる2期目のゼミナールも始動します。



「俺たちの力で日高管内の農畜産物や軽種馬をもっとPRしよう！」ゼミ生からの発案により実践活動がスタート！



ほうれんそう栽培する上島農場の視察。年4回の作付を2回に抑え、間に緑肥を栽培。永続的営農のための土作り！



和牛500頭を飼養する伊藤牧場。家族4人で営農するため、ICT技術の活用や人の動線を考えた牛舎を視察。

「新冠産ぼっちゃんかぼちゃグラタン」の完成と販売 【広域 高付加価値化】

新冠町では、小玉南瓜「坊ちゃんかぼちゃ」の栽培と特産品作りを目指す農業者グループ「新冠坊ちゃんクラブ」が昨年3月に設立され取り組みが始まりました。

普及センターでは、観光振興プロデューサー（町企画課）と連携し、栽培面や加工品販売に至る取り組みに対し支援を行っています。

昨年は台風の影響等の心配もありましたが、大切に育てられた手のひらサイズのかぼちゃは、「新冠産ぼっちゃんかぼちゃグラタン」として全国や町内での販売が始まっています。

今後のさらなる進展を祈念します。

甘いぼっちゃんかぼちゃが
まるごと食べれます。
とっても美味しいので、
是非ご賞味下さい！！



「新人普及職員、ただいま奮闘中」先輩と共に現場を駆け巡る！

大塚美幸

日高西部支所、野菜担当のホープ大塚美幸さん。彼女なしでは平均年齢49歳の普及センターの中で、ただ一人の20代です。彼女の笑顔に職場が和みます。普及職員2年目の昨年は、2週間泊まり込みでの農家研修があり、研修中顔を見に行くと…パートさんと区別が付かないくらい溶け込んでいました。充実した研修を受けさせて頂き、ちょっとたくましくなった彼女に、皆さん声をかけてくださいね。

(記者：T 専門普及指導員)



山本博規

昨年の春は、大型新人が久しぶりに当普及センターに2名配属されました。そのうちの1名が第1係（新ひだか町と新冠町）を担当する山本博規です。十勝生まれの十勝育ち、大学も帯広畜産大学まるまる十勝産です。（なかなかの貴重品）大学では小豆の研究に没頭し、「マメ」なはずなのに彼女いない歴？年。当地に来て約半年、土肥係長の右腕として東奔西走。園芸担当として今後の活躍を期待するばかりです。

(記者：T 専門普及指導員)



柴村大輝

本所第2係の柴村普及職員は、香川県出身で昨年新規採用となりました。畜産、園芸など様々な場面で先輩普及指導員と活動し、日々奮闘中です。学生時代はスキー部に所属し鍛えたそうですが、昨年は某先輩普及職員の手ほどきを受け川釣りに挑戦、一人で渓流に入るほどハマっています。また、競馬も趣味で毎週馬券を購入し馬産地に貢献するなど、すでに日高の普及員の鑑として(?)活躍しています。

(記者：M 専門普及指導員)



日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>